



とよろうつうしん

兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校
令和3年度
学校通信 第1号 No.2
令和3年6月25日発行

校長 横田 滋



“生まれ変わる豊聴”

そんな大げさなものではないですが、校内で同時に行われていた工事が終わり、新しくなったところを紹介します。

1 プール

昨年度はコロナウイルス感染予防のため、水泳授業を中止しました。そのため、プール改修工事を早めにスタートさせ、このほど完成しました。

手前は幼児用で浅くし、柵の向こうは通常の深さになっています。太陽の光を浴びたブルーが目眩しく綺麗で、子どもたちも喜ぶ笑顔が楽しめます。プール開きは各学部で実施しました。



【改修したプール】

2 砂場

幼児用プールだったところは「砂場」に再利用しました。周りには人工芝を敷き詰めています。土に触れることは心を落ち着かせ、五感を刺激し、心身に良い影響を及ぼすそうです。特に幼児期には必要で、幼稚部の部屋から砂場まで裸足で移動でき、怪我しないよう配慮されています。

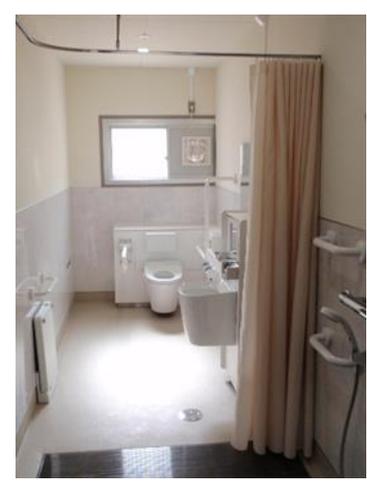


3 食堂棟トイレ(新設)

食堂棟にもトイレが必要だ、と新設しました。白を基調にした室内は非常に清潔感があります。手前にはシャワーができるようになっています。

以上、3か所の改修工事が終わりましたが、まだエレベーター横と校庭のトイレ改修が続いています。

本校は創立73年、特別支援学校の中では伝統校と言えます。校内、あらゆる箇所が古くなったり、傷んだりしていますが、校舎だけでなく、いろいろなことが“次代”に通用するようアップデートしていかなければならないと感じています。





支援教育部



支援教育部は、教育相談や通級指導教室で地域の子どもたちや在籍校への支援を行っています。聞こえの経過観察が必要な乳幼児で保育相談として定期的に来校されている子どももいます。悩みを抱えられている保護者や先生方に寄り添い、前向きに子どもに関わることができるようにサポートすることを目指しています。聞こえに関する相談と通級指導教室は聴能部と共に支援に当たっています。

通級指導教室「あおぞらルーム」では、小・中学校の通常学級で学んでいる子どもたちが、自立活動の内容（難聴、構音障害等の言語に関する指導）を学習します。難聴通級では、よりよい補聴器の活用を目指したり、補聴器の保守管理の仕方を学んだりしています。言語通級では、主に発音練習を行っています。聞き分けや息の練習、口の体操等一人一人に合わせた取り組みを通して発音の改善を目指します。

聞こえやことば、就学にむけてのご相談等、保護者の方や先生方と一緒に考えていきたいと思っていますので、支援教育部までご連絡ください。

お知らせ

- わくわく交流会（難聴児の交流会）・・・今年度は中止します。
- 但馬地区難聴児担当者連絡会（難聴児の担任や養護教諭の研修会）6/30、11/24
- 発達支援研修（豊岡市内の小・中学校の先生）8/24
- 聞こえ講習会（保健師の研修会）11/1



幼稚部

今年度の幼稚部は、男児2名（5歳児1名、4歳児1名）女児1名（4歳児）の計3名、毎日笑顔いっぱいにご過ごしています。

新型コロナウイルス、そして緊急事態宣言に伴い、様々な活動が制限されていますが、保護者の皆様のご協力も得ながら、こまめな手洗い・消毒、マスクの着用など、幼児なりにできる感染予防対策に取り組んでいます。

毎日の生活の中では、友だちが見本になったり、‘友だちと一緒にだから頑張れる’と、挑戦したりする姿が見られます。それはとても微笑ましく、そしてたくましくも感じます。

時に思いがぶつかることもありますが、自分の思いを伝えること、相手の思いを聞くこと、どちらも大切であるからこそ、お互いに気持ちを伝え合う力をつけていってほしいと考えます。これからも、3人仲良く、元気いっぱいに育ち合ってほしいです。

